スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岩手県宮古市

自 治 体 名 ： 岩手県宮古市
担 当 課 名 ： 宮古市教育委員会事務局　生涯学習課
電 話 番 号 ： 0193-68-9120

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	1259.18㎢
人口	44,724人
公立中学校数	11校
公立中学校生徒数	973人
部活動数 (運動部活動のみ)	64部活
地域クラブ活動数	8クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	中学校運動部活動地域移行プロセス及び部活動の地域移行方針R6.6策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

岩手県の沿岸部のほぼ中央、本州では最東端に位置している。東に太平洋を望み、西は北上山地を仰ぎ、市の西側は県都盛岡市と隣接し、南側は花巻市、遠野市、山田町に、北側は、岩泉町に接している。総面積は1,259.15平方kmで岩手県の総面積8.2%を占めている。

都道府県内では、北海道に次ぐ広大な面積を有する岩手県の中で、宮古市は市町村の中で市域（面積）が一番広い市となる。

このように市域が広く、山間部、沿岸部、中山間部の小規模校から市街地付近の比較的生徒が多い中学校まで様々ある。

過去５年間の人口数と生徒数の推移からみても少子化は進んでいる。少子化にともない団体スポーツはほとんどの学校が単独で取り組めない状況である。生徒数の減少と働き方改革等で学校の部活動の設置数も限られ、生徒たちのニーズに応えられないのが現状である。そこで、学校・地域・スポーツ関係団体等が連携し、部活動を支えながら、中学生に活動の機会を保障する取り組みを構築することが急務である。

団体スポーツ等は、地域クラブとして広い市域の各地区から拠点施設に集まっての活動が主体となることを想定している。この際の移動手段、移動に係る経費負担や活動経費の負担が大きな課題となる。また、持続可能な取り組みとするためには指導者の確保、指導者の資質の向上、地域スポーツクラブの受け皿となる体制整備等も大きな課題である。特にも指導者確保において、指導者が生業として成り立つ仕組みを構築する必要がある。

本市５年間の人口の推移

令和４年３月：49,076人
令和５年３月：47,816人
令和６年３月：46,719人
令和７年３月：45,488人
令和８年１月：44,562人
4,514人減少

本市５年間の中学校生徒数の推移

令和３年５月：1,151人
令和４年５月：1,099人
令和５年５月：1,004人
令和６年５月：　973人
令和７年５月：　923人
228人減少

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●推進体制図

＜部活動地域移行推進実働チーム＞　通称『まず Kadatte』
＜推進員＞（６人）
〇役割分担
・総括(コーディネーター)　生涯学習課スポーツ振興係（副主幹）
・予算・申請等　生涯学習課スポーツ振興係（副主幹兼係長）
・学校関係調整　学校教育課教育研究所（所長・相談員）
・部活動情報把握・分析等　生涯学習課部活動地域移行支援員（元ICT支援員）
・芸術・文化団体調整　文化課文化係（係長 ）
・地域学校協働推進　生涯学習課社会教育係(統括的地域学校協働活動推進員)

＜協力団体等＞
・学校関係
　体育関係　中体連事務局（事務局長）
　文化関係　中文連事務局（事務局長）
・競技団体等
　体育関係　体育協会（総務係長）
　文化関係　芸術文化協会（会長）

●行政組織内での役割分担

◉**教育委員会**（生涯学習課スポーツ振興係）
〇統括コーディネーター：部活動の地域展開方針等作成　部活動の地域展開情報発信　実証事業実施依頼（各競技団体との交渉）中学校部活動相談・報告のまとめ
〇スポーツ振興係：地域移行実施に係る予算、補助金、謝金等の事務業務、兼職兼業届出事務、国・県調査依頼等の窓口業務、地域クラブ大会参加補助金申請事務等

年間の事業スケジュール

令和７年４月	**新任中学校長へ部活動地域展開方針説明 競技協会へ実証事業継続の依頼 市内全中学生対象に地域クラブ「Kadatte〇〇教室」募集案内**
令和７年５月	**「Kadatte〇〇教室」参加者把握 参加者スポーツ安全協会保険加入**
令和７年５月～６月	**市内中学校訪問・実態把握（部活動・部員数・合同部活動）**
令和７年５月～令和８年２月	**実証事業実施（地域クラブ）**
令和７年12月	**実証事業アンケート調査（生徒・保護者・ 顧問・指導者）悉皆で実施**
令和８年１月	**指導者講習会の開催**
令和８年２月	**国の委託事業３年間の総まとめ 第6回検討委員会の開催**

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		8クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		8クラブ（ 2部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0
全体の指導者数	52人	全体の運営スタッフ数	6人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
Kadatte柔道教室 Kadatte剣道教室	競技協会	柔道 剣道	4月～2月 休日 月2回 4月～2月 休日 月1回	9:00～12:00	1年:15人 2年:21人 3年: 9人 1年:10人 2年:10人 3年:10人	通年	7人 10人	3人	0円	中体連：部活動
Kadatte合同トレーニング	競技協会 総合型地域スポーツクラブ	陸上	4月～2月 毎週土曜日	14:00～16:30	1年：12人 2年：10人 3年： 8人	通年	5人	3人	0円	中体連：部活動
宮古エンジョイベースボールクラブ(EBC)	スポーツ少年団	野球	4月～3月 ・平日２回 ・休日１回	18:30～20:30 休日 9:00～12:00	1年：10人 2年：10人 3年：10人	通年	4人	3人	3,000円 /月額	地域クラブ
宮古ラグビースクール中学部	競技協会	ラグビー	4月～2月 ・週４回	17:30～19:00 休日 9:00～11:00	1年：5人 2年：7人 3年：5人		5人	5人	年会費 10,000円 (保険料含)	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ●Kadatteバレーボール教室　開催回数：２回　参加者：26名　指導者：3名　実施時間：9:00～12:00 活動場所：津軽石中学校体育館
- ●Kadatte！サッカー教室　開催回数：２回　参加者：８名　指導者：４名　実施時間：9:00～12:00 活動場所：河南中学校グラウンド
- ●みんなKadatte！ラグビー体験教室　開催回数：２回　参加者：20名　指導者：5名　実施時間：9:00～12:00 活動場所：へいがわ老木公園グラウンド
- ●まずKadatteシーカヤックで自然体験　開催回数：１回　参加者：７名　指導者：9名　実施時間：9:00～12:00 活動場所：白浜漁港

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

●Kadatte地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道、剣道
運営団体名	宮古市教育委員会 部活動地域移行推進実働チーム
期間と日数	柔道：４月 ～２月 月２回程度 剣道：４月 ～２月 月１回程度
指導者の主な属性	柔道：宮古柔道協会員 剣道：宮古剣道協会員
活動場所	柔道：宮古市立河南中学校格技場 剣道：シーアリーナ、宮古一中体育館
主な移動手段	自家用自動車、徒歩、自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	柔道：0円 剣道：0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 柔道：生徒１人あたり、800円/1回 剣道：生徒１人あたり、800円/1回

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図

宮古市教育委員会
地域移行推進実働チーム
○教育委員会事務局：各競技協会・協力団体等へ地域クラブ活動実施依頼
○コーディネーター：各中学校、各競技協会　競技団体等へ　趣旨説明（合意形成）
・会場の確保及び調整
・必要物品等の調達及び調整
・移動手段の調整・相談
・実施報告のまとめ
○スポーツ振興係：予算、謝礼・保険加入等事務

市内中学校
○実証事業案内の周知
○参加者の取りまとめ
○参加生徒の報告
○事業に係る意見

地域クラブ実施団体（協力団体）
＜各競技協会・体育協会（地域総合型スポーツクラブ）・スポーツ少年団＞
○実証事業実施計画作成
○市内中学校へ実施事業の案内、参加者募集
○実証事業実施・実施報告

●指導者や運営スタッフなどの役割分担

○教育委員会事務局生涯学習課
部活動地域移行推進実働チーム設置、方針等策定
○統括コーディネーター
実施計画立案、地域クラブと学校部活動の連絡調整
受け皿になる競技団体等との連絡調整
○各地域クラブ運営責任者（事務局長等）
実働チームとの連絡調整、実施要項等各校へ案内、実施報告書作成

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

〇中学校休日の部活動の地域移行（地域展開）に向けた関係者で組織した「宮古市部活動地域移行検討委員会」の開催
〇部活動地域移行推進実働チーム設置と統括コーディネーターの配置

取組の成果

〇「宮古市部活動検討委員会」
・部活動の地域移行の基本方針を示し、事業実施の進捗状況を報告し助言を受ける。
＜部活動の主な現状報告＞
学校単独で団体競技はチームを編成できず、大会参加は合同チームがほとんどである。団体競技は、廃部になる状況である。
＜検討委員会での主な意見＞
喫緊の課題である教員の働き方改革について学校現場の現状を理解すること
子どもたちの活動の場を保障すること　休日の部活動が地域の活動になることを期待する。
※検討委員会を開催することで、それぞれの立場から貴重な意見を聞くことができる。
部活動の地域移行(地域展開)は課題も多いが、子どもたちの活動の場を学校と地域で連携して保障することが何より大切であることを理解し合う場となっている。
〇部活動地域移行推進実働チーム設置と統括コーディネーターの配置

コーディネーターの具体的な動きの実績

・推進実働チームの総括が、コーディネーターの役を担い、実証事業の受け皿となる各競技協会に方針を説明し、合意形成を図った。合意形成が図られた協会に地域クラブ活動の開催を依頼し、実施計画の確認、実施の報告、指導者の資格確認、兼職兼業の申請、謝金支払い事務等を行っている。
・市内各中学校へ地域移行の方針や受け皿となる競技団体との連携の在り方等を説明し、連絡調整を行い実証事業推進の中心的役割を担っている。

今後の取組における課題

〇国の委託事業（改革推進期間）の最終年になり、「部活動地域移行検討委員会」から、改革実行期間に向けて新たに活動を推進する組織が必要である。
〇３年間の実証事業を受けて、持続可能な地域展開をめざすためには、受け皿となる競技団体と学校関係者等との更なる情報交換が必要である。

課題への対応方針

〇部活動の地域展開の改革実行期間に向けて、地域クラブが持続可能な活動となるよう（仮称）「部活動地域展開活動本部」などを組織する。その組織の在り方は、３年間の実証事業の実施状況等を鑑み、機能的で実の上がる組織構成をめざす。
〇教育委員会内の事務局と地域クラブ及び（仮称）「部活動地域展開活動本部」と各中学校間が情報を共有できるようなシステムを構築する。ICT機器を有効に活用する。持続可能な地域クラブ活動にするために
＜実施計画⇒募集⇒参加者申し込み⇒実施報告＞
の流れをICT機器を利用し、事務手続きを簡素化するなどに取り組む。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

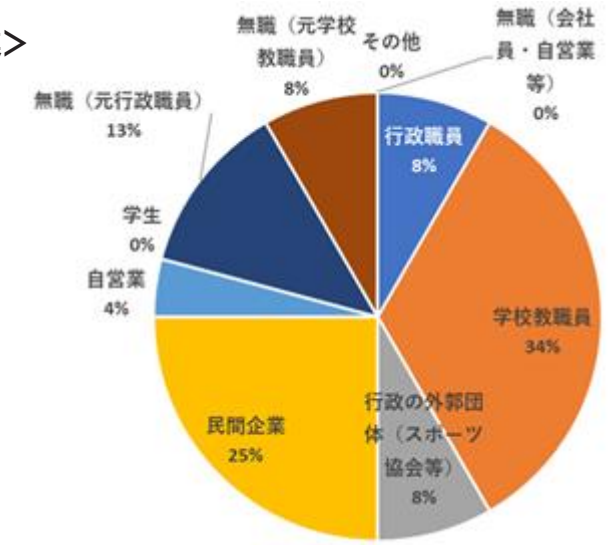
取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

〇競技協会が実施主体となった地域クラブ
・Kadatte柔道教室：指導者数　８名（全員有資格者）
　柔道協会員３名、顧問４名、部活動指導員１名
・Kadatte剣道教室：指導者12名（全員有資格者）
　剣道協会員７人、中学校顧問３名、高校顧問２名
・Kadatte合同トレーニング：９名（審判資格含む全員有資格者）
　陸上競技協会員５名、中学校顧問２名、高校顧問１名
　総合型地域スポーツクラブ指導者２名
・Kadatteバレー教室：指導者３名（全員有資格者）
〇スポーツ少年団が実施主体となった地域クラブ
・Kadatteラグビー教室：指導者５名（全員有資格者）
　ラグビー協会委員６名、JRFU公認C級コーチ３名
・Kadatteサッカー教室：指導者３名（全員有資格者）

＜指導者の職業＞



取組の成果

〇指導者が子供たちのために休日に地域クラブ活動を積極的に実施した。
＜指導者の感想＞
・恵まれた環境の中でいろいろな学校の生徒が集まり練習する姿を見ると、この活動に携わって良かったと思う。（陸上）
・各学校に昨年度に引き続き特設部を設置していただき、大会参加できたことに感謝したい。３年生に最高の思い出を残せてやれたと思う。（ラグビーフットボール）
・各道場で稽古する良さと大勢で集まって稽古する良さ、それぞれの活動を大切にしながら、子供たちのために協力していきたい。（剣道）

今後の取組における課題

〇改革実行期間に向けて、持続可能な地域クラブ活動にするためには、指導者数のの確保が第一である。
〇実証事業期間中の受け皿は、主に競技協会に担っていただいたが、各競技会とも会員の高齢化で会員数も減少していることから、受け皿を多岐にわたって構築する必要がある。
〇平日の部活動も視野に入れながら、地域展開をするには、生業となるような地域クラブの設立が必要である。
〇部活動指導員（学校教育課担当）の確保に向けて、担当課間の連携を高める。

課題への対応方針

〇競技協会を受け皿の母体としながら、意欲的に活動する地域クラブの発足の支援をする。（広報・HPで情報発信）
〇新たに立ち上がった地域クラブに対して、補助金等の支援を行う。
〇地域クラブが気軽に体験活動等を開催できるシステムを構築する。
（実施計画・募集⇒参加申し込み⇒実施⇒実施の報告）

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

○市域が広く、山間部、沿岸部、中山間部に中学校が点在している中、地域クラブへの参加は、中心市街地の中学生が中心であり、中山間部の小規模校からの参加者は少ない状況である。そこで、特に小規模校へは学校、生徒のニーズにより、部活動指導員の配置を積極的に推進している。
○市立中学校における部活動指導員の人材確保、並びに部活動の質的な向上等を図るために人材バンクの登録を行っている。

宮古市立中学校部活動指導員人材バンク

登録者属性

職業は自営業や会社役員、住職、元公務員などである。学校や競技協会からの紹介で人材バンクに登録するケースが主である。現時点で登録しているのは全て男性である。

登録年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	4名
40代	3名
50代	2名
60代以上	1名

登録種目

卓球、軟式野球、柔道、吹奏楽
バスケットボール
ラグビーフットボール

資格有無

登録者は公認柔道B指導員（四段）審判員CライセンスJBA公認C級コーチ、JSPO公認スタートコーチ、ジュニアコーチ等有資格者である。中には、競技経験者であるが、資格なし、審判資格だけの登録者もいる。

指導者研修の内容

研修名	令和７年度宮古地区スポーツ少年団協議会スポーツ指導者講習会（兼）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格更新研修会
講師	佐藤　晋樹　氏（菅整形外科医院　理学療法士） 山﨑　琢真　氏（総合花巻病院　理学療法士）
研修内容	宮古地区スポーツ少年団協議会主催（岩手県スポーツ協会と市体育協会後援）で昨年度に引き続き２回目の開催となった。 指導に関する知識と情報、指導者としての資質向上と活動の推進及び、組織活用と活性化のため、「スポーツ指導者のコンプライアンス」と「トレーニング講義」の講義を受講した。 選手の成長を第一に考えつつ、安心・安全な指導環境を整えることの大切さや、科学的根拠に基づいた指導が求められることを再認識する機会となった。

指導者研修受講者の声

参加者①
遠方への移動が不要になることで、時間的な負担が減り、より多くの指導者が参加しやすくなるので、今後も継続開催してほしい。

参加者②
選手の安全を守るために、指導者自身が常に学び続けることが大切だと感じた。普段の指導を見直す良いきっかけとなったので、資格保有者だけでなく、スポーツをしている子供に関わる人に受講してもらいたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇休日の部活動の地域移行として、宮古市体育協会加盟している競技協会、スポーツ少年団に実証事業への実施依頼を行った。理念、方針に賛同し、合意形成がなされた競技団体等が地域クラブとして実証事業を実施した。

＜実施依頼をした競技協会数＞　10
＜競技協会主催で実施した地域クラブ数＞　7
＜スポーツ少年団で実施した地域クラブ数＞　1

取組の成果

〇休日の地域クラブに参加した中学生の在籍する教員（顧問）から は、他の地区に比べ地域移行が進んでいる気がする「Kadatte教室」があることは助かる。この取り組みをどんどん広げてほしい。
〇休日の地域クラブ活動の受け皿になった各競技団体が、中学校へ発送する案内文章・開催要項、参加のとりまとめ等にICT機器を有効に活用し、円滑に実証事業ができるように支援した。
〇休日の地域クラブ活動に取り組んだ競技団体の指導者からは、競技人口が減っていく中でこういった活動が軸になっていく、子供たちのために今後も積極的に活動に参加する。などの前向きな意見が多かった。

今後の取組における課題

〇＜指導者確保＞
指導者のほとんどが、仕事をしながら実証事業に参加してくれた。今後は持続可能な認定地域クラブ活動の指導者になるためには、生業となりうる指導者を確保する必要がある。
〇＜参加依頼・参加申し込みの連携＞
休日の地域クラブ活動の案内文書、参加申し込み等を学校へ依頼することが多く、働き方改革の観点から改善が求められる。
〇＜適切なスポーツ保険の加入＞
休日の地域クラブ活動に参加する生徒の把握が実施直前となることがあり、活動ができない場合がある。

課題への対応方針

〇＜指導者確保＞
人材バンクの有効活用、各競技協会との連携、生業となる仕組み、委託も検討する。
〇＜参加依頼・参加申し込みの連携＞
実働チームの事務局、実施団体の事務局　学校現場と有効なICTを活用し二次元コード等を活用し　事務量の軽減、タイムラグを生まない方法を構築し更なる連携を図る。
〇＜適切なスポーツ保険の加入＞
事務局・地域クラブ・学校の担当者が連携して、年度当初に参加生徒の把握を行う。その際は二次元コードを使用し、円滑に加入手続きを行うようにする。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

〇学校部活動の常設部７競技団体に受け皿の依頼をし４競技団体が地域クラブとして実証事業を行った。（市内全地域）
〇陸上競技は市内全校が特設部として活動しており、大会参加する生徒を対象として陸上教室を実施した。（市内全地域）
〇ラグビーフットボール競技は、大会参加条件が学校部活動であるため、参加する生徒の所属の学校６校に特設ラグビー部を設置してもらい大会参加を果たした。（参加生徒の所属学校）

取組の成果

〇部員数の少ない柔道・剣道競技において、地域クラブとして合同練習会を開催した。他地区から協会を通じて参加依頼があった希望者には、合同練習会参加を認めている。
〇市内全地域を対象に特設部活動の支援として、陸上教室を全天候トラックを有する市の陸上競技場で開催することができた。他地区からの参加者も受け入れた。

今後の取組における課題

〇持続可能な地域クラブ活動には、指導者の確保が課題である。
〇地域クラブの受け皿となる各競技協会が、積極的な活動することで、他地区からの参加希望者が増える傾向があり、他地区との連携の在り方が今後の課題である。

課題への対応方針

〇指導者を確保するために、各競技協会や学校現場等から指導者の情報を得ながら人材バンクへの登録を推奨し、人材バンクの有効な活用を図る。
〇本地区で中心的な役目を担う競技協会が多く、広域で活動をしたいとの思いがある。他市町村の担当者と可能なことから連絡調整を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

＜実証事業競技＞

学校部活動（常設部）の支援

〇柔道競技：柔道協会主催「Kadatte柔道教室」
〇剣道競技：剣道協会主催「Kadatte剣道教室」
〇野球競技：野球協会主催「Kadatte！野球教室」
〇サッカー競技：スポーツ少年団主催「Kadatteサッカー教室」
〇バレーボール：バレーボール協会「Kadatteバレーボール教室」

学校部活動（特設部）の支援

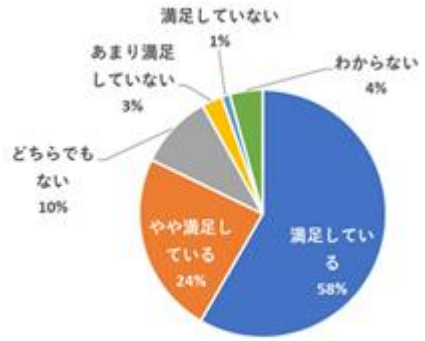
〇陸上競技：陸上協会主催：「Kadatte合同トレーニング」
〇ラグビーフットボール：ラグビー協会主催「Kadatte！ラグビー教室」

多様な活動の支援

〇シーカヤック：シーカヤック協会主催「Kadatteシーカヤック教室」

取組の成果

〇部活動の地域移行の実証事業を実施し、学校部活動の常設部の支援として５競技団体、特設部の支援として２競技団体、多様な活動の支援として１競技団体、合計８つの競技団体が部活動の受け皿として活動を行った。
〇参加した生徒122名、指導者45名のアンケート結果から、ほとんどが参加して良かったと回答した。また、今後もこの取り組みの継続を望むとの回答がほとんどであった。



参加生徒：満足・やや満足82%



指導者：満足・やや満足92%

今後の取組における課題

〇学校部活動で活動したい生徒も多く、地域展開しながら真に機能する学校現場と地域クラブ活動との連携の在り方を構築すること
〇受け皿となる地域クラブ活動の認定の在り方を構築すること

課題への対応方針

〇実働チームが核となり、市長部局と教育委員会事務局の担当者が定期的に情報交換をし、それをもとに学校現場（部活動担当者）との連携を図る。
〇実施主体の認定地域クラブ活動を総括する組織を作り、地域展開の持続可能な受け皿となる地域クラブ活動の設立に努める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

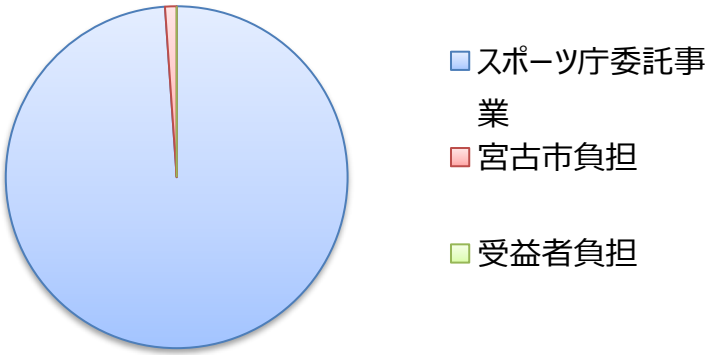
取組事項

実証事業に参加した７競技協会の指導者と支援員への謝礼金、参加生徒の保険料、会場使用料についてはスポーツ庁の業務委託費を活用した。その他は事業主体である宮古市が負担した。

地域クラブに係る経費

項　目	費用（円）	割合	備考
スポーツ活動費	926,176		
謝礼金（指導者）	806,400	87.1%	
会議費	10,140	1.1%	市負担
保険料	59,376	6.4%	
会場使用料	50,260	5.4%	

経費内訳



今後の課題と対応方針

〇現時点で地域クラブに係る経費について、受益者からの負担を求めておらず、今後受益者負担の考え方を整理する必要がある。
〇地域クラブの持続可能性に視点を置いたとき、一定の受益者負担は必要となることから、地域での持続可能な部活動の体制整備に向けて、学校、地域、競技団体と連携して引き続き検討を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○実証事業の活動場所は、受け皿となる競技団体が、日頃使用している学校体育施設及び市の社会体育施設等を拠点とした。

○学校体育施設を活用した地域クラブ

・「Kadatte柔道教室」河南中学校格技場　・「EBC」津軽石中学校グランド

・「Kadatteサッカー教室」河南中学校グランド

○市の社会体育施設を活用した地域クラブ

・「Kadatte剣道教室」 市総合体育館多目的体育室

・「Kadatteラグビー教室」 へいがわ老木公園グランド

・「kadatte合同トレーニング」市運動公園陸上競技場

○市の産業施設等

・「Kadatteシーカヤック教室」白浜漁港

取組の成果

○学校体育施設及び社会体育施設を利用することで、施設利用料の負担が軽減された。また、公的な施設を利用することで安全面（AED設置等）が保障できる。

○社会体育施設を利用することで、学校体育施設では練習できない内容や体験が可能となった。

※陸上競技場：本格的なリレー練習、冬季でも夏季と同じ練習メニューで練習ができた。

※剣道：多数参加ができ、冬季でも暖房のある施設で、安全に活動できた。

今後の取組における課題

○地域クラブ活動の拡大とともに活動場所の確保が課題となる。学校施設開放事業との調整が必要である。

○社会体育施設を利用する場合は使用料の負担があるが、練習をする上でメリットが多く、参加する生徒の意欲付けにもなることから、引き続き活動の支援（使用料、光熱費等の補助）を検討する。

課題への対応方針

○地域クラブの安定した活動場所を保障するため、学校施設開放事業の担当部署及び学校現場の担当者との綿密な情報共有が必要となる。
今後は認定地域クラブ活動実施に向けて実働チーム中心になり、より一層の連携強化を図る。

○地域クラブ活動が社会体育施設等を利用する場合の使用料は、実証事業の活動実績と同様に継続して支援できるように予算計上を行う。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

〇地域スポーツクラブ活動体制整備事業＜地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業＞の委託を受けた令和５年度から令和７年度の３年間の実証事業実施のまとめとして、市内全域の中学校、その保護教員（部活動顧問）、実証事業へ参加した地域クラブ活動の指導者を対象に悉皆でのアンケート調査を実施した。（アンケート結果・参加者/関係者の声）で紹介
〇部活動の地域移行（地域展開）の国の方針や３年間の実証事業の取り組みを広く情報発信するためにホームページを開設した。

取組の成果

宮古市のホームページを見たことがあるか。

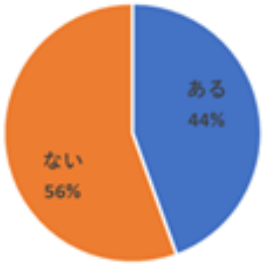
生徒



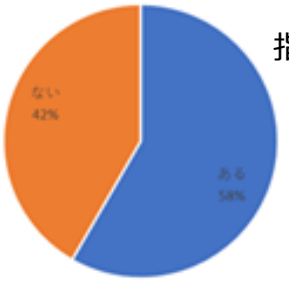
保護者



教員



指導者



今後の取組における課題

〇悉皆のアンケートを実施したことにより、国、県、市の方針を定着させるには、地道な取り組みと情報発信が必要であることが分かった
〇部活動の地域展開には、多くの意見が寄せられている。特にも教員からは、現実的な 意見が多く連携の難しさがある。
〇ホームページの掲載内容の精選を図る。

課題への対応方針

〇アンケート結果をしっかりと分析し、特にも感想、意見は貴重な資料として、今後の取り組みの参考とする。
〇部活動の地域展開の理解を高めるために、今後進められる認定地域クラブ活動を取り組みの中心に据え、理解のすそ野を広げる。何より参加する生徒が地域クラブ活動に積極的に参加できるような支援をする。（指導者の確保、経済的な支援、移動方法の工夫）
〇ホームページの掲載内容は、認定地域クラブ活動の様子を中心に情報発信をし、部活動地域展開の理解を高める。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

〇地域スポーツクラブ活動体制整備事業の地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業の委託を受けての改革推進期間の最終年度は、昨年度設立した部活動地域移行推進実働チーム（「まずKadatte」）が、「未来ある子どものたちのために手を取り合う」を活動の理念とし、実証事業の受け皿の中心となった各競技協会が積極的に地域クラブ活動を実施した。

〇実証事業に取り組む中で、持続可能な地域クラブが誕生した。１つは、「野球をしたくても入学した学校に野球部がない。」「部員が少なく単独校では大会に出場できない」「部員が少なく、廃部や休部になる」などから、「好きな野球を思いっきりさせたい。」という野球を愛する地域の方々が、＜エンジョイベースボールクラブ（通称E.B.C）＞を設立した。もう一つは、剣道協会主催で道場ごとに稽古していた活動を実証事業を通してまとまって稽古するようになり、そこから＜宮古剣道少年団＞として新たな地域クラブが発足した。

●成果の評価

〇部活動地域移行推進実働チームを発足し、学校部活動の実態把握のための学校訪問を行ったことで、学校現場の困り感と急激な少子化により、子どもたちが多くの仲間と触れ合いながらスポーツができる環境が減少している現状を知ることができた。実態把握に努め「**子どもの将来のために**」学校、地域、行政が連携する組織運営が構築された。

〇実働ーチームの方針に賛同した各競技協会主催の地域クラブ活動に参加した多くの生徒からは、大勢で活動する喜びと専門的な技術を教えてもらえる喜びの声が寄せられた。指導者からは、少子化に伴い部活動が成り立たなくなっている現状を救ってあげたいなどの声が多く寄せられている。

●今後に向けて

〇地域の宝である子どもたちのために、各競技協会で主催する休日の地域クラブ活動と多様な体験活動に自主的に参加できるような仕組みを構築する。

〇実証事業終了後に持続可能な地域クラブ活動にするため、地域クラブ間の連携を深める活動（合同トレーニング等）を定期的に実施し、学校、地域、競技団体等と協議しながら、総合型地域スポーツクラブへの移行を視野に入れ、検討を進めていく。

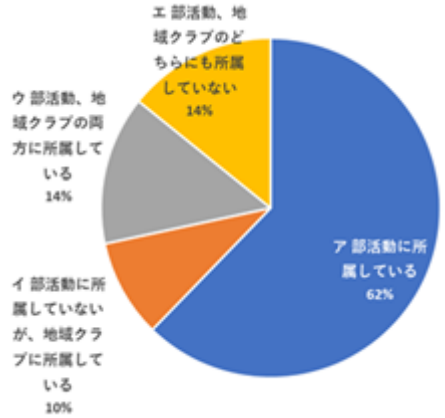
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

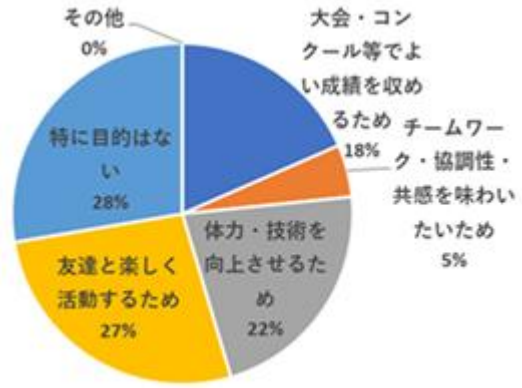
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（生徒）

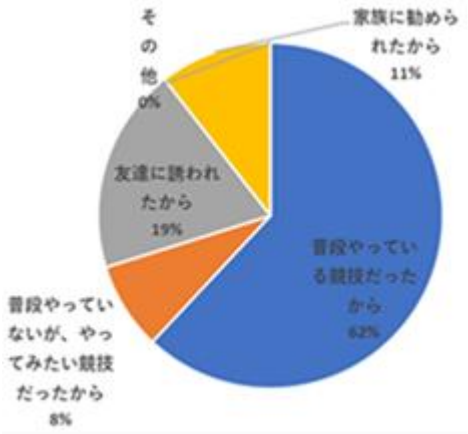
Q 部活動または地域クラブに所属しているか?



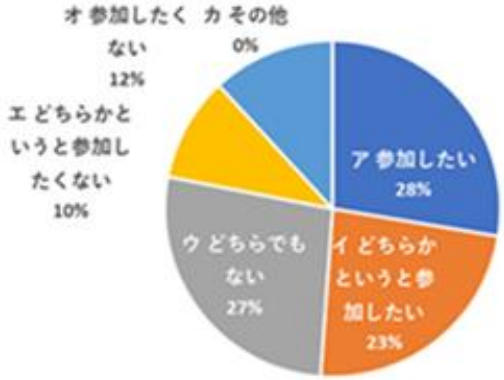
Q 部活動や地域クラブに所属している目的は？



Q 地域クラブ活動に参加しようと思った理由は何か?



Q 休日の部活動（地域クラブ）に参加したいと思うか？



●参加者/関係者の声

参加者/関係者①

〇生徒の人数が少なくなってきたので、大人数で練習するのがいいし、刺激になると思うので、やった方がいい。

参加者/関係者②

〇先生の負担を考えると地域移行はいいと思うが、生徒との交流の機会がなくなるのが課題だと思う。

参加者/関係者③

〇人数が少ないから地域移行は仕方がないと思うが、自分は人見知りだからなるべく避けると思う。
〇会費はなしにしてほしい。

参加者/関係者④

〇平日は学校で活動し、休日は他校と合同でやるのがいい。
〇休日や平日とも関係なく部活は地域移行しないでほしい。部活に顧問がちゃんと来るようにしてほしい。

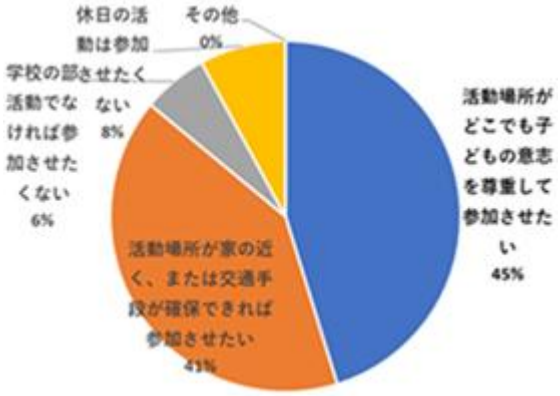
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

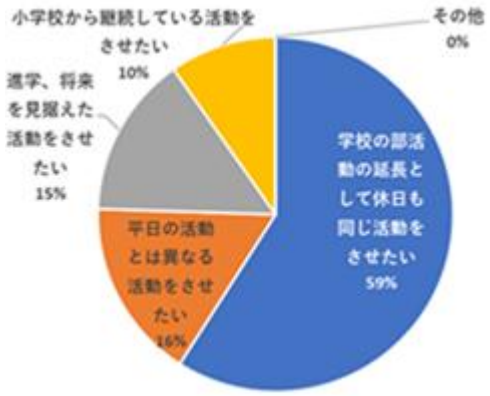
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（保護者）

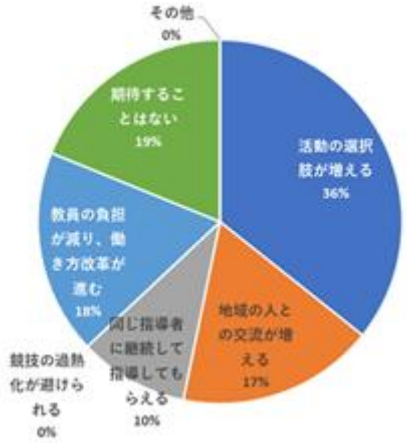
Q お子様を地域クラブ活動に参加させたいか？



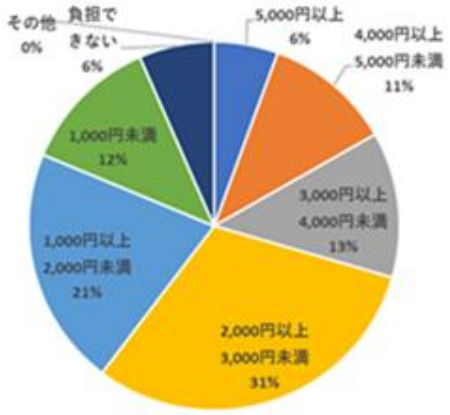
Q 参加させる場合はどのような活動をさせたいか?



Q 部活動が地域展開した場合に期待できることは何か?



Q 地域展開の際の適当な受益者負担額はいくらか?



●参加者/関係者の声

参加者/関係者①

〇送迎が心配です。練習試合等遠征になった場合には負担が大きくなる。

〇楽しくやらせたい方、勝たせたい方人数が増えるともめそうな気がする。

参加者/関係者②

〇地域移行について進捗が滞っていると思う。

〇父母会の負担が大きくなると退部や入部を控える家庭が増加し、部活動自体がなくなり、子どもたちがやりたいことをあきらめなければならなくなる。

参加者/関係者③

〇生徒の少ない学校は、部活動の選択肢が少ないので、地域クラブで楽しくできればいいと思う。

〇休日の活動は、家庭の事情が関わってくるので、参加できる生徒、出来ない生徒の技術、熱量が違ってくる。配慮されるとは言え不公平感がある。将来的に部活動を希望しない生徒が増えると思う。

参加者/関係者④

〇休日の活動はお金がかかり、送迎をしなくてはならないので、休日の活動はなくてもいい。

〇子どもの意向で、部活動ではなく地域クラブに所属している。送迎の問題がとにかく大きい。地域移行を進めるなら働く保護者のいる子供も平等に参加できる移動手段を整備すべきだ。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

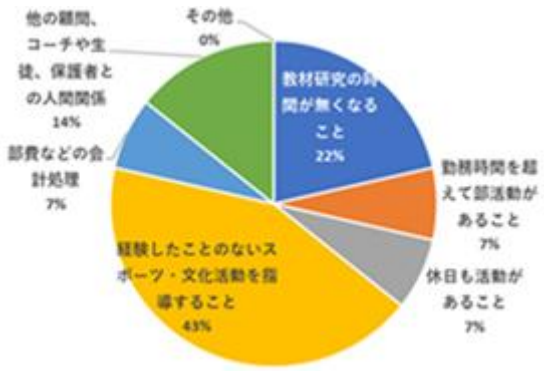
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（教職員・部活動顧問）

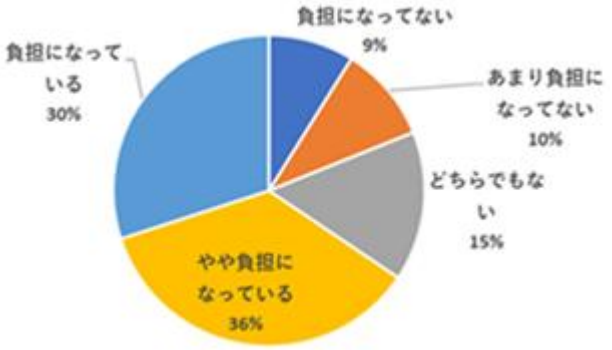
Q 部活動の指導のやりがいは?



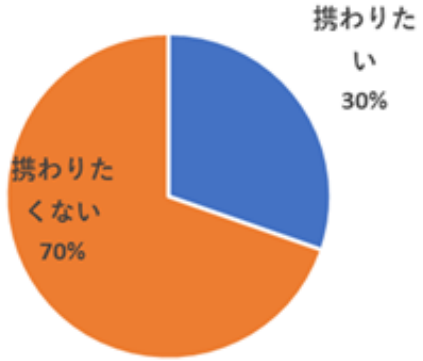
Q 部活動指導のどのようなことが負担か？



Q 休日の部活動を指導することについてどう思うか？



Q 休日の地域クラブ（得意競技）に携わりたいか？



●参加者/関係者の声

参加者/関係者①

〇地域展開は地方と首都圏では受け皿が根本的に違う。同様の進め方にはならない。幸い宮古市ではKadatteの事業で子供たちの活動の場所が他より担保されていると感じる。

〇部活動は教育の一部であるということを考えると、教員も一緒に携わることが大切だと思う。

参加者/関係者②

〇指導者にしっかりとした報酬を準備すること、教員の休日の部活動手当は最低賃金である。外国の地域クラブのようにするなら、報酬面も真似すべきである。

〇中体連がある限り、地域移行は進まないと思う。

参加者/関係者③

〇地域移行は賛成であるが、部活動を学校から切り離すことがいいのか、学校と地域の指導者がうまく連携をとればいいと思う。部活動から、様々なことを学んでいる生徒の様子をみることが私たち教師には必要だと思う。

参加者/関係者④

〇生徒の活動の場として地域に指導者がいるのは助かる。子供たちは部活動で日常生活を保ててきたこともあり全く部活動がなくなるのは心配だ。

〇早く全ての競技のクラブチームをつくりが学校単位の枠組みを廃止し、チーム宮古として休日に集まって練習して県大会への参加をすればよい。

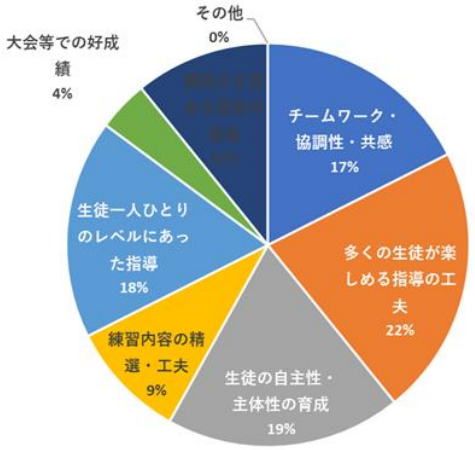
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

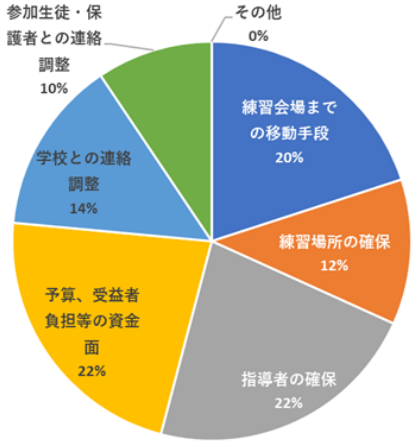
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果（地域クラブ指導者）

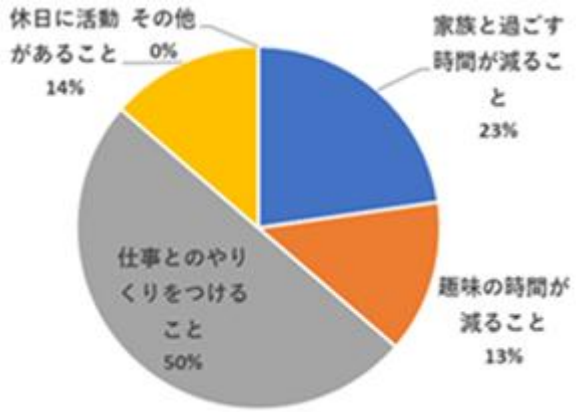
Q 何を重視して指導しているか?



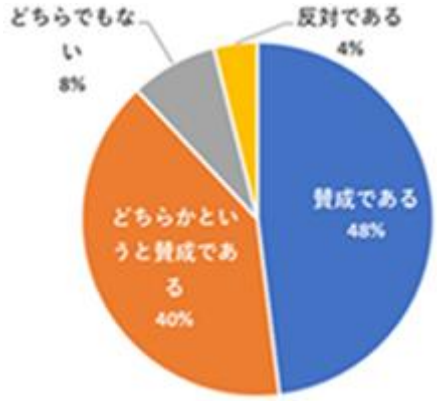
Q 部活動が地域移行になる場合の課題は何か？



Q 休日に地域クラブを指導してどんなことが負担か？



Q 本格的に部活動が地域展開することをどう思うか？



●参加者/関係者の声

参加者/関係者①

〇国の方針示されどんどん学校から部活動がなくなっていくと思うと寂しい感じがします。学校経営上の部活動をどう捉えているか学校現場の声を聞きたい。

〇実際に指導してみるとやる気のある生徒が来るので、意欲的で良い。健全育成と競技力向上を目指して善処したい。

参加者/関係者②

〇現状の活動では学校単位の枠を抜け切れていない。地域クラブの活動を集約することで少人数校の生徒にもメリットが生まれると思う一方で、指導者たちも仕事があり諸々の手続きや資金面や練習・大会引率等の負担がすべて地域におりてくることも課題だと感じる。

参加者/関係者③

〇コーチの立場だが、土曜日に仕事もあり休日の練習や試合にほとんど出られない。他の指導者にお願いしているが、他に指導者も仕事の両立であり、ボランティア精神に頼る現状に今後の課題がある。

参加者/関係者④

〇魅力的なまちづくりとして必要な取り組みだ。子供たちがやりたいことをやれる環境づくりのために個々の活動では限界があるので、市政として全国に先駆け予算を確保し、指導者たちが諦めない宮古市の支援を願っている。

〇地域との連携協力は大賛成だが、学校の手を離れるのは反対だ。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料





【新たに設立された地域クラブ：エンジョイベースボールクラブ（EBC）】（大勢で野球ができる･野球を続けることができる喜び）





【新たに設立された地域クラブ：宮古剣道少年団】（大勢で切磋琢磨･世代間交流･日々成長ができる喜び）

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料



【kadatte合同トレーニング】





【kadatteシーカヤック】







【特設ラグビー部設置（５校）：宮古合同ラグビーチームとして中総体に参加、上位入賞】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年	令和６年			令和７年	令和８年
検討委員会設置 生徒、保護者、教職員、競技団体等へのアンケート実施	**地域移行推進実働チーム発足** 方針・組織策定	**実態把握** 部員数等把握 受け皿となる競技協会との合意形成	**実証事業実施検討委員会開催** 実証事業中間報告	**実証事業の拡大 新たな地域クラブ発足 検討委員会開催** 実証事業の総括	**部活動地域展開活動本部（仮称）の設置** 地域クラブ活動の拡大

●ステークホルダー

学校、体育協会、各競技団体
市長部局、市教育委員会事務局、統括コーディネーター

●経過

令和５年度、市教育委員会生涯学習課が事務局となり、部活動地域移行検討委員会を設置し、本格的な実証事業に向けての実態把握（生徒、保護者、教員、各競技団体へのアンケート）と試行的実証事業を実施した。令和６年度は総括コーディネーターを配置、部活動地域移行推進実働チームを設置し地域移行プロセスと部活動の地域移行の基本方針を作成し、本格的な実証事業を実施した。

●実施内容、工夫した点 等

実働チームが各競技団体へ地域移行の趣旨説明をし、合意形成を図る。その後、地域クラブ活動実施の依頼をする。各競技団体は各中学校へ地域クラブの開催を案内し、各中学校は参加者を取りまとめて競技団体に申し込む。実証事業（地域クラブ活動）実施となる。

●実施にあたって生じた課題

〇受け皿となる競技団体は、ほとんどが審判中心の協会であるため、指導者の確保が難しい。実働チームと学校教育課とが情報を共有しながら、部活動指導員の配置とその活用を工夫し、指導者確保に努めている。
〇本市は県内一の広大な面積を有し、移動に時間がかかる。中心市街地から遠い生徒の移動が課題である。

●今後の展開

〇令和７年度からは、令和６年度実施した地域クラブ活動の実証事業を継続しながら、未実施の競技について、各競技団体等と更なる連携を深め実施できるよう、より具体的な手立てを提案する。併せて、指導者同士が連携協力して、各地域クラブが合同でトレーニングを実施しながら、「チーム宮古」で持続可能な地域クラブ活動の運営になるように進める。
〇市長部局が勧める中学生の公共交通機関の無料化による利用促進と休日のスクールバス利用等を検討しながら、多くの生徒が地域クラブに参加しやすい環境づくりに努める。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

宮古市の中学校運動部活動地域連携プロセス

地域連携の実証事業期間

令和５年度

地域移行に向けた準備

＊アンケート調査
（小・中学生、保護者、教員、競技団体等）
＊部活動地域移行検討委員会開催
（実施計画、アンケート結果報告）
＊試行的な実証事業実施
（陸上、野球、ラグビー、女子バスケ）

令和６年度

実証事業（地域クラブ）スタート

＊部活動地域移行推進実働チーム
（チーム宮古「まずKadatte」）設置
＊部活動地域移行方針
（学校訪問、各競技団体等へ説明）
＊協力競技団体実証事業（地域クラブ）実施
（休日の学校部活動支援・多様な活動）

休日の部活動の緩やかな地域連携期間

目指す姿：〇スポーツに親しむ機会の確保　〇働き方改革の推進　〇持続可能な部活動　〇多様なスポーツ環境の整備 〇多様な体験活動の確保

令和７年度

実証事業終了　地域連携へ

＊推進実働チームから運営本部へ
（方針の見直し、体制の再構築）
＊学校部活動と地域クラブとの連携強化
（実態把握、部活動数の推移、合同チーム）
＊部活動地域移行実証事業のまとめ
＊部活動地域移行検討委員会（事業報告）

令和８年度～令和10年

持続可能な地域クラブ活動実施

地域クラブ活動の充実

＊部活動地域展開推進チーム設置
総括コーディネーターを配置
＊部活動地域展開活動本部(仮称)の設置
（地域クラブ活動運営団体の機能を含む）
認定地域クラブ活動の認定事務

＜組織づくりの流れ＞

1 部活動地域移行検討委員会	2 部活動地域移行推進実働チーム	3 部活動地域連携推進実働チーム	4 部活動地域展開活動本部(仮称)
実施の方向性・アンケート結果報告	移行の方針　学校部活動の実態把握	実証事業のまとめ	地域クラブ活動の拡充と連携強化
実証事業開始	学校のニーズ、協力競技団体への依頼	実証事業から持続可能な活動へ	持続可能な地域クラブ活動の支援
	実証事業の本格実施	事務局(実働チーム)・運営本部の設置検討	認定地域クラブ活動の連携と支援
			Kadatteスポーツクラブの活動実施